

## 1 研究主題

# 確かな学力を支える国語力の育成 語る子どもの育成を目指して

国分寺町立国分寺北部小学校

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 時代背景から

平成10年に新学習指導要領が告示され、ゆとりの中で、子どもたちに生きる力を育むことをねらいに教育が展開されてきた。それと同時に、「学力の低下」が各方面から懸念され、平成14年には「確かな学力の向上のための2002アピールー学びのすすめ」が発表された。実際、2003年にOECDが行ったPISA調査によると日本の子どもたちの学力が低下し、特に読解力においては低下が著しいことが明らかになった。また子どもたちの学ぶ意欲も低く、家庭学習の時間が減少しているといった課題も浮き彫りとなった。

そんな中、文部科学省は学習指導要領の改訂に着手するという意向を、平成16年12月17日に示し、改善のポイントとして「国語教育の重視」をあげた。また、文化審議会答申においても「これからの時代に求められる国語力」が示された。そこでは、「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」の4つの力を伸ばすことが必要であるとされ、特に「考える力」と「表す力」の重要性が強調されている。そのため学校においては「情緒力」「論理的思考力」「思考そのものを支える語彙力」の育成を目指す教育が求められている現状である。

### (2) 本校の児童の実態から

本校の児童は、平成16年度に実施した学習状況調査の結果、実施した4年生以上の全ての学年でおおむね好成績を収め、県平均より高い数値が出た。算数を中心とした少人数指導の充実をはじめ、研究を基礎・基本の徹底に絞って3年間取り組んできた成果であると考えられるが、若干国語の読解力に課題が見つかった。読解力とは言っても、文章を読み取るということだけではなく、読み取ったことを自分の言葉で表現していくという段階においても抵抗を示す児童が少なくない。中でも気になるのは誤答ではなく、無答である。はじめから考えようとしなない、問題に手をつけないといった学習意欲面での課題が話し合われ、その解決を図ることが大切ではないかと考えた。同様に児童に実施した学習アンケートの結果、他教科と比べて国語だけが、「嫌い」と答えた割合が全体の半数を超えており、好きな順位でも下位位置にある。また、授業のどんな活動に楽しさを感じるかという問いに対して、その割合が少ないのは、自分の思いや考えを発表する時 - 33% 教科書や資料を読んでいる時 - 47% 考えている時 - 32%であり、やらされている・読まされているという児童の意識が解決しない限り、確かな学力の向上にはつながらないと考えた。

以上のことから，学習意欲の向上を研究のベースとして，

- ・ やらされる学習からやりたいと思う学習へ
- ・ 読まされる学習から読みたいと思う学習へ
- ・ 借り物の言葉での表現から自分の言葉での表現へ

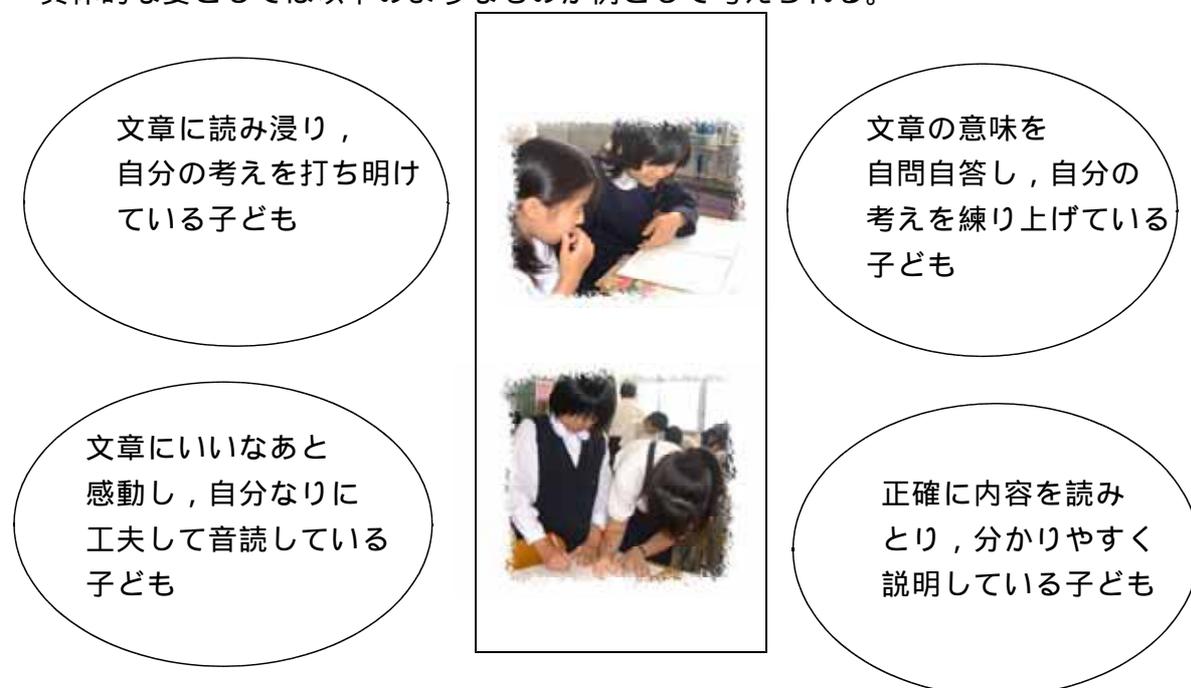
すなわち，子どもたちの学習を能動的なものにしていこうという共通理解のもと，本研究主題を設定することとした。なお，本校は，子どもたちが前向きに，そして意欲的に学習している姿を「語る子ども」としてとらえ，これから研究を進めていくこととする。

### 3 本校が考える「語る子ども」とは

「語る」ということばを聞いたとき，ややもすると「表現能力」すなわち他者に向かって「語り」を行うことと捉えられがちである。しかし，本校がサブテーマに掲げている「語る子ども」というのは，表面に表れてくる一方向を指しているのではない。

本校が目指している「語る子ども」像とは，「主体的に文章に向かい，そこから得たものを意欲的に表し伝えようとしている能動的な子ども」である。そこには，他者へと向かう子どもの姿と共に，もう一方で文章へと向かう子どもの姿を見出している。語るためには，文章を読み味わいその意味を深く考えなければ語れないし，またそこから得た思いや考えを伝えたいと願う強い意識や，そのための表現技能がなければならない。本校が目指しているのは，この両面で力を伸ばし，熱い思いをもって語る子どもの育成である。

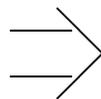
具体的な姿としては以下のようなものが例として考えられる。



## 5 研究仮説及び研究内容

### 研究仮説 1

魅力的な教材との出会わせ方を工夫し目的をはっきりともたせることができれば、語る子どもの育成につながるであろう。



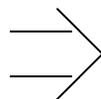
### 研究内容

単元構成の工夫

選択学習材の導入

### 研究仮説 2

友だちとの対話の場面を確保し、また価値ある表現の場を設定すれば、語る子どもの育成につながるだろう。

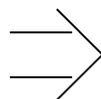


学び合いの場作り

表現の場作り

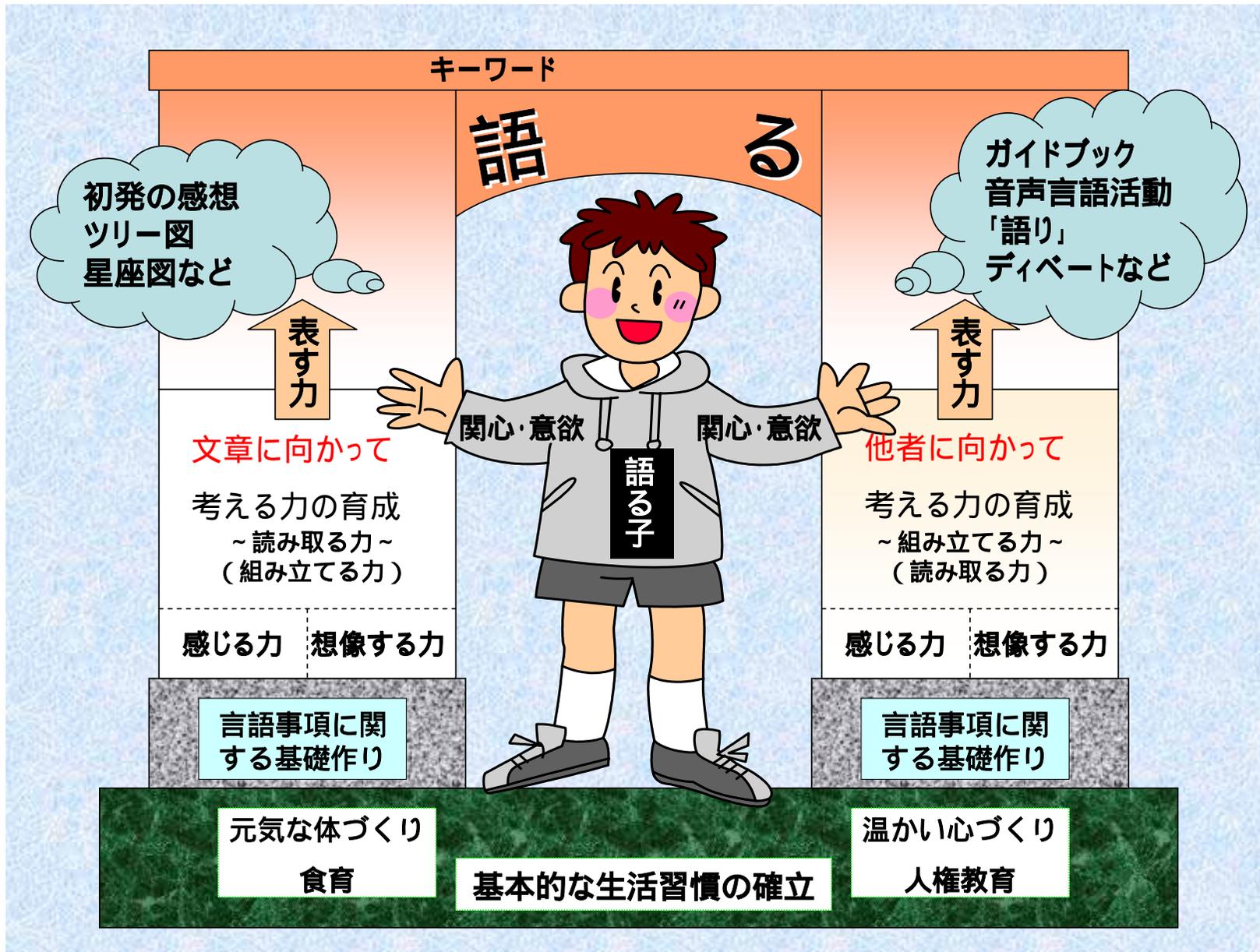
### 研究仮説 3

文章との自問自答の方法 = 「自力読み」の方法を、系統的に指導していけば、語る子どもの育成につながるだろう。



作品の星座図作成  
(物語文)

比べ読み  
(説明文)



## 【説明文教材における語る子の育成】

### 研究仮説 1、2 より

教科書教材を読んで抱く疑問や課題は児童それぞれのものである。それに合った学習材を自ら選択して情報を収集することは、児童の意欲を高める上で有効である。さらに、既習の教科書教材と比較することで情報はより確かなものとなり、友達との交流も有意義なものになると考える。

教科書教材のテーマにそってさらに情報を収集して発信するために、関連図書などの言語資料からの情報収集活動や表現の場を単元に組み入れていく。

第3学年及び第4学年 言語活動「C読むこと」

読んだ内容などに関連した他の文章を読むこと、疑問に思った事などについて関係のある図書資料を探して読むことなど

(小学校学習指導要領解説 国語編 平成11年5月 文部省 p.81 以下この枠は同書)

### 研究仮説 3 より

「教材を学ぶ(読む)のではなく、教材で学び方(読み方)を学ぶ」

第5学年及び第6学年 「C読むこと」 内容 才

必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。

……情報活用の目的に応じて、音読や黙読、速読や比べ読みなど、さまざまな読み方を適宜用いることができるようにすることも大切である。さらに、中心語句や段落に気をつけながら、内容の中心を押さえたり、接続語などに着目したりして、筆者の述べ方を読み取る指導を工夫する必要がある。…

(p.114)

身に付けさせたいのは、どの説明文に対しても発揮できる『自力読みの力』

「筆者の述べ方を読み取る指導」こそ、どの説明文に対しても発揮できる『自力読みの力』につながるのではないかと考える。

### 教科書の説明文教材で取り上げられている自力読みの観点

2年 説明の順序 何がどんな順序で書いてあるかに気をつける。

3年 段落 段落ごとに何が書かれているか考える。

繰り返し出てくる言葉、題名とのつながりのある言葉に気をつける。

4年 文章のまとめり まとまりに分ける。  
まとまりごとに何が書いてあるかをとらえる。  
まとまりがどのように結びついているか考える。

5年 説明文の要旨 筆者の述べたいことの中心を要旨という。  
段落やまとまりの内容を整理し、まとめていく。  
段落やまとまりの文章全体の中での働きを考える。

6年 文章の要約 文章に書かれている内容を短くまとめることを要約という。

第3学年及び第4学年「C読むこと」 内容 イ

目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと  
……第1学年及び第2学年では、順序という視点で文章全体をとらえてきた。第3学年及び第4学年  
では、部分をまとめ、つなげ、比べることなどを通して、全体構造をよく理解することが要求されて  
いる。…… (p.78)

だいじな文や言葉を見つける。

第5学年及び第6学年 言語活動「C読むこと」

読書発表会を行うこと、自分の課題を解決するために図鑑や事典などを活用して必要な情報を読む  
事など  
……同じ作者の作品について考えたことや複数の文章を読み比べて分かったこと、ある本から得たテ  
-マについて関連した図書資料によって調べた事を報告することなどがある。 (p.115)

筆者の伝えたいことがよく分かるように、内容を短くまとめる。

以上のこと系統的に指導していくために、2つの方法を考えている。一つは、「比べ読み」の手法で  
あり、もう一つは「説明文攻略アイテム作り」である。

(1)「比べ読み」

「比べ読み」については、小学校学習指導要領解説の中で以下のような記述が見られる。

「比べ読み」の意義

一つの教材だけを深く読み取っていくのではなく、何かと比較することで、児童が主体的に読み  
の観点を明らかにしながら、意欲的に活動できるのではないかと考える。

- ・筆者の論の展開の仕方の工夫に気づくことができる。
- ・筆者の考えを明らかにすることができる。
- ・単一教材では得られなかった多面的な考え方ができる。

- ・新たな課題が生まれる。
- ・自分の考えを確かめることができる。
- ・自分の考えを広げることができる。
- ・読書生活を広げる活動ができる。
- ・興味や目的に応じて必要な部分を深く追求することができる。

#### 「比べ読み」の方法

ア．同じテ - マで違う筆者の作品を比べる。

実践例 2年「たんぽぽ」 $\longleftrightarrow$  「たんぽぽのちえ」(光村図書2年)

- ・述べ方や内容の共通点や相違点を明らかにしながら読み取る。

イ．気付かせたい述べ方を用いた短い教材を導入段階で与える。

実践例 4年「ヤドカリとイソギンチャク」 $\longleftrightarrow$  「めだか」(教育出版3年)

- ・初めに与えた教材で学んだ読み方を生かして、主教材を読み取る。

ウ．主教材と似た述べ方の教材をまとめの段階で与える。

実践例 5年「動物の体」 $\longleftrightarrow$  「色さいとくらし」(東京書籍4年)

- ・主教材で学んだ論の述べ方を確認させ、定着させる。

4年「ヤドカリとイソギンチャク」

- ・主教材で学んだ論の述べ方のバリエーションを広げる。

比べ読みの効果的な教材や方法を探り、系統性を見いだす

#### (2) 説明文の学びのアイテム作り

上記の教科書教材の自力読みの観点をふまえて、学年に応じた自力読みのアイテムを見出し、繰り返し使っていくことで、それらを使って自分の力で読み取っていけるようになるのではないかと考える。

説明文を自力で読むためのポイントをまとめたアイテム集を作成する

## 第4学年 「生き物の知えを読み取ろう」

### 主張点

- 1 本単元で育成する国語力をこうとらえる
  - ・ 書かれていることを正しく読み取り，話し合いを通して要約文を作ったり段落相互の関係を考えたりすることができる。
  - ・ 「問い」と「答え」のある文章に興味を持ち，進んで生き物について書かれた本を読もうとする。
- 2 学習指導・評価のポイント
  - (1) 興味・関心・意欲を持続させるための単元構成の工夫
  - (2) 要約文を作ったり段落相互の関係を考えたりするための香川型教材の活用と相互交流
  - (3) 「問い」と「答え」の関係を読み取る力を転移・活用するための比べ読み
  - (4) 説明文を読み取る力を転移・活用するための「説明文なるほどアイテム集」作り

### 指導の実際

- (1) 興味・関心・意欲を持続させるための単元構成の工夫（「語る子どもの分析表」参照）

「問い」と「答え」のある文章に興味を持たせるための導入

第1時に，下記の2つの話をして，「問いかけ」のある文章のよさに目を向けさせた。

どちらの話が好きか	<p>働き者のアリを知っていますね。</p> <p>アリは，草や木の上に牧場を持っています。その牧場には，たくさんのアブラムシがいます。アリがアブラムシの体をトントンとたたくと，アブラムシはおしりからあまいみつを出してアリにくれます。</p> <p>アリは，そのみつを飲み込んで巣に持って帰り，ほかの仲間に分けてやるのです。</p> <p>アリは，アブラムシからみつをもらう代わりに，アブラムシを食べに来るテントウムシを追い払って，アブラムシの身を守ってやります。</p> <p>アリは，他にもいろいろな虫と助け合って暮らしています。</p>	<p>皆さんは夜になると眠りますね。その時，目を閉じます。</p> <p>ところで，魚にはまぶたがありません。魚も眠るのでしょうか。もし眠るとしたら，どうやって眠るのでしょうか。</p> <p>魚は，目を開けたまま，岩のすきまなどに入って眠ります。カツオやマグロは泳ぎながら眠ります。止まると死んでしまうからです。海草のまねをして，海草と一緒に眠る魚もいます。口からゼリーのようなものを出して，それにくるまって眠る魚もいます。</p> <p>魚は，この他にもいろいろな自分に合った方法で眠ります。</p>
内容	7人	25人
話し方	4人	28人

クイズみたいだった。  
質問していた。

#### いろいろな本の紹介

時間	書名	出版社	紹介方法
第1時	アリの世界（科学のアルバム）	あかね書房	上記のような話をした後，参考文献として紹介した。
	アリの一日（カラー自然シリーズ）	偕成社	
	なぜなに さかな	世界文化社	
	ねむねむさかな（こどものとも）	福音館書店	
第9時	たこなんかじゃないよ（こどものとも）	福音館書店	「問い」の文に直して読み聞かせ
第10時	ねむねむさかな（こどものとも）	福音館書店	読み聞かせ
第11時	あめんぼがとんだ	新日本出版社	「問い」の文を意識して読み聞かせ

読み取りを楽しく助ける動作化や対談  
 児童が描いたヤドカリやイソギンチャクの絵の  
 いくつかを拡大コピーし、着色してお面を作った。  
 読み取りの際の動作化（第5・6時）や対談（第  
 7時）をいっそう意欲的に行うことができた。

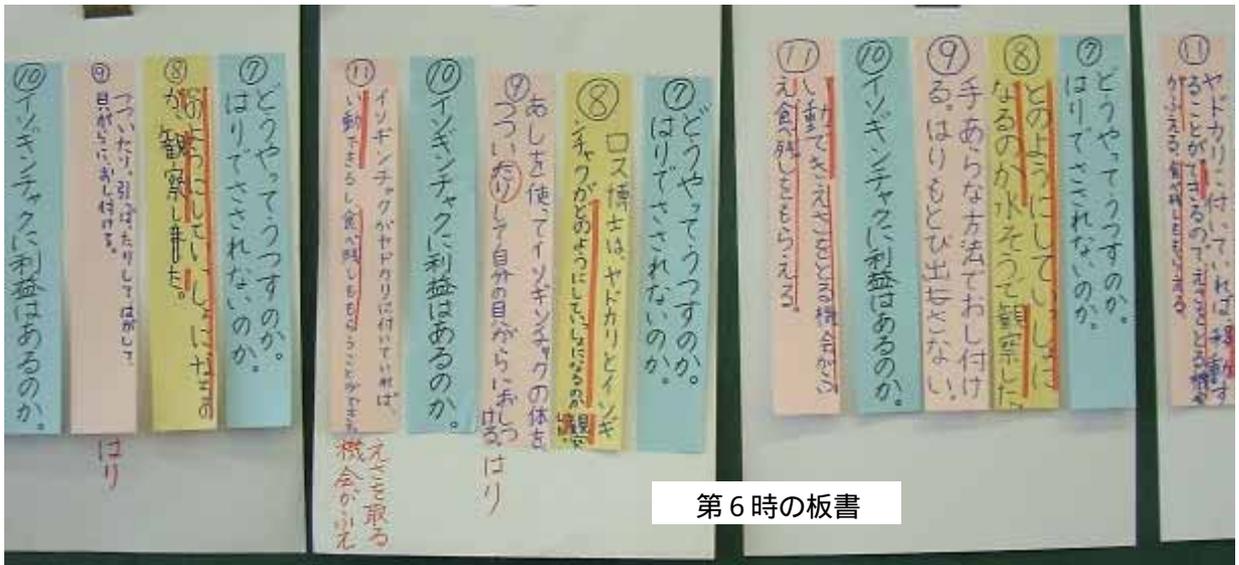
第6時、ヤドカリがイソギンチャクを  
 移す動作化 ⇨



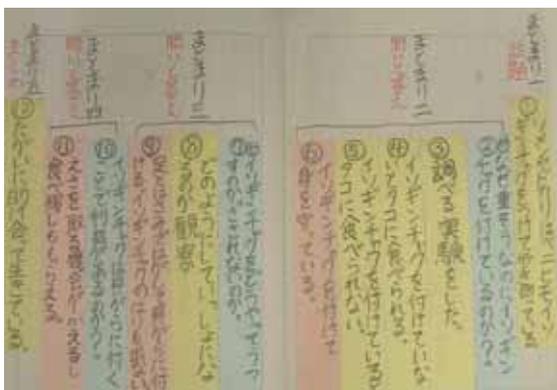
(2) 要約文を作ったり段落相互の関係を考えたりするための香川型教材の活用と相互交流

香川型教材は、教材文の各段落を「問い」(水色)・「答え」(ピンク)・「その他」(黄)の色別要点カードに  
 まとめることで、段落相互の関係を視覚を通して理解できるようになっている。話題提示とまとめ・  
 問いの段落は見つけやすいので色分けを先に、答えと実験や観察の段落は深い読み取りが必要だと思  
 われるので要点まとめを先に行った。

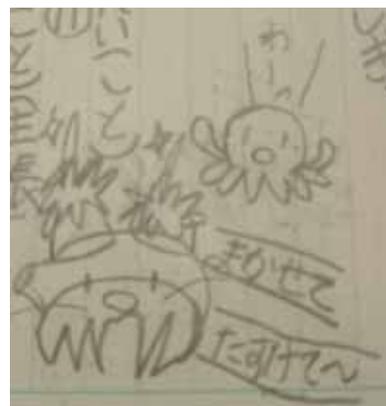
その際、話し合いによる課題解決を目指した。また、動作化や挿絵と本文の比較、文の書き換え、  
 対談など、さまざまな手法で読み取りの支援をした。



第4・5時の要点まとめは、一人一人がまとめた後、全体で話し合  
 った。第6時は、グループごとに要点をまとめた後、全体で共通点や  
 相違点に目を向けて話し合った。



第8時、段落のつながりを示したノート



絵を描いて確かな読み取りをしている  
 子ども

「問い」と「答え」の関係を読み取る力を転移・活用するための比べ読み

問いと答えのある文章の表現形式は、一様ではない。そこで、1次の導入時と2次の終末部分で比べ読みを行った。その際、簡単に読み取れ、違いを比較しやすい「めだか」(教育出版3年上)を活用した。この活動を通して、問いと答えの表現形式に慣れ、3次での図書資料の読み取りが深まった。さらに、11月単元「ウミガメのはまを守る」での表現活動にも生かしていきたい。

第9時の文章に向かって考えている子どもの姿は、以下の通りである。



段落番号を打って、3回音読

1文読み、競争読み、段落読み



各段落の色分け

まとまりは、3つできそうだ。



要点をまとめる

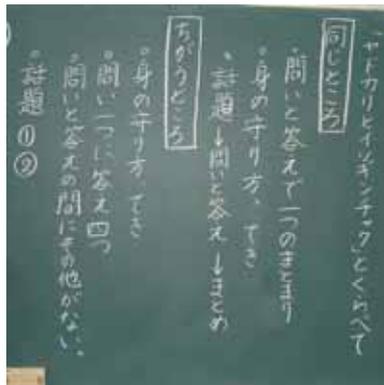
自問自答しながら、自力で

こんなノートができたよ。

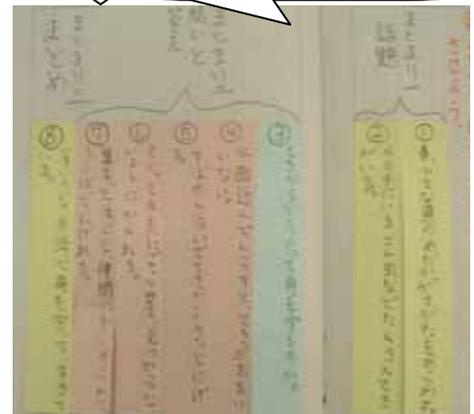


要点カードを操作する

友だちと話し合いながら



内容や構成を比べる



「めだか」でも、てきがいて身の守り方があったことが分かりました。ちがうところは、話題がだん落でした。それと、問いと答えの間にその他にないことが分かりました。

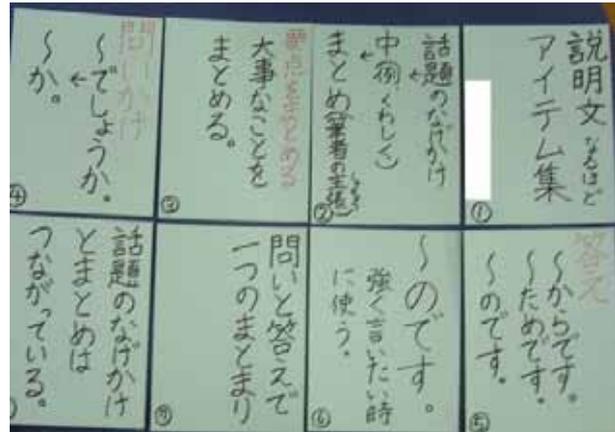
「めだか」では、問いは1つでも、答えが4つもありました。だから、その説明文によって、答えの数がちがうことが分かりました。このお話を読んで、めだかはたさんのてきにねらわれながら、いろいろな方法で身を守っていることがすごいと思いました。

最初は話題で、最後はまとめでした。問いや答えは、まとめた1つの中にありました。

授業後の児童の感想

(3) 説明文を読み取る力を転移・活用するための「説明文なるほどアイテム集」作り

説明文を読み取る際にも、既習事項を生かすことは大切である。既習事項が生かされれば、読み取りが深まるだけでなく、表現活動も豊かになるはずである。児童と共に見つけた文章構成や文末表現・指示語・接続語・要点のまとめ方などを、説明文の学びのアイテムとして蓄積している。



## 【物語文教材における語る子の育成】

研究仮説 1・2 より

「語る」には、強い思い・感動がなければならない。しかし教科書教材が、必ずしも全ての児童に最も深い感動を与える作品であるとは言い切れない。教科書教材は、学びの技能を付けさせるためにある。本当に「語る」にふさわしい作品は、個々の児童の問題意識に最もふれた作品であろう。40人いれば、40の作品がその対象となるのである。教科書教材で培った読みの力は、その個々の作品を確かに読み、感動を深めることに発揮される。従って

教科書にある「読書へのいざない」を物語教材と関連させながら、単元に組み入れていく。つまり本校における物語文の基本的単元構成は、  
「教科書教材」 表現活動を伴う「選択学習材」という形態をとる。

選択学習材をあつかうこと自体は決して目新しい特別なものではない。教科書の単元末のページにある読書へのいざないは、基本的にこのような学習過程を表している。本校としては、「語る子どもの育成」のために、このような教科書の構成を生かしながら、教科書教材と選択学習材をより効果的に関連づけることを研究内容にしようと考えた。実際に、すでにそのような構成になっている単元もある。（例）3年下「世界の民話を読もう」では、「木かげにごろり」を全員で読み、その後一人ひとりが紹介したい民話を選択して読み、ポスター作り（表現活動）を行う構成になっている。

### 3 内容の取り扱い 「C読むこと」

読んだ内容などに関連した他の文章を読むこと、...

ここでいう「関連」とは、一方向ではなく、例えば、教科書教材を拠点としてさまざまな題材としての広がりや深まりを工夫することである。...このような新たな読書の世界への広がりを大切にしたいものである。（小学校学習指導要領解説 p 81, 82）

「選択学習材」を単元の中に位置づけるメリット

- ・身につけた力を単元の中で転移・活用する機会が保証される（主に技能面。「考える力」の育成）。早い段階で、読みの力がどの程度身に付いているか評価できる。
- ・一人ひとりの意欲・関心を大切に、「語る子ども」の前提条件が保証される（主に情意面。「感じる力」「想像する力」の育成）。十分に作品に浸り、行間を読ませ想像を豊かにする時間も保証する。
- ・一人ひとりの読書生活をより豊かにできる。より明確な目的意識をもって終末で扱う学習材を探す過程で、多くの本に出会うことになる。
- ・単元の終末にお気に入りの作品を自力読みし、その作品を表すという意識を持たせることで単元全体を通しての意欲を向上させることができる。
- ・またそれは、子どもにとって教科書教材を読む目的をもつことにも繋がる。

## 研究仮説3より

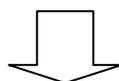
「教材を学ぶ（読む）のではなく、教材で学び方（読み方）を学ぶ」  
…身に付けさせるべきは、どの物語文に対しても発揮できる、自力読みの力。  
本校では、それを「作品の星座図」を通して育成していく。

### 「作品の星座図」とは何か

それは、物語の重要な言葉（点）をつなぎその作品構造（線）が表され、読みの観点・自力読みの力の要素が一枚の画用紙に集約された読みの表現物である。

初めての星座図づくりでは、かなりの時間がかかる。しかし、星座図という言葉ではないが、このような読みの表現物（言葉を線でつなく）の形式は、新教科書の4年生の3つの物語教材に明確に位置づけられている。これを4年生だけで単発にやって終わりとすることもできるが、本校の研究内容として、各学年に配当されている読みの観点を取り込みながら、その前後の学年にこの図を位置づけていくことにした。

そうすることのメリットは何か。それは、このような読みの具体的表現物を共通に設定することで、単元間・学年間を越えて螺旋的に自力読みの力を確実に育成していくことができるようになる点である。例えば、3年下の「ゆうすげ村の小さな旅館」で「物語の『しかけ』」という自力読みの力を付けるが、それが4年生の物語文「世界一美しいぼくの村」などの読みに生かされる。また3年生であらすじをまとめる活動を行うが、星座図を作成することで、4年・5年・6年の物語文においても必然的にあらすじをまとめるようになる。しかもそれは、子どもたちの意識の中に定番の活動として捉えられるようになってくる。自力読みの観点の定着化である。



「作品の星座図」の各学年の系統性を見いだしていく

物語文を自力で読むためのポイントをまとめたアイテム集を作成する

### 指導計画作成の配慮事項

各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で程度を高めて取りあげたりして、弾力的に指導することができるようにすること。（p130）

児童の言語能力が螺旋的に高まるよう、それぞれの学年の学習指導を孤立させず、各学年の発達段階を見通して目標の系統性を保ちながら柔軟でしかも弾力的な運用を図り、系統化した効果的な指導がなされるよう計画を立てていくことが大切である。（p131）





